

# 緑友 だより

No. 13

全国印刷緑友会機関誌

東京都墨田区本所 4-29-17 (社) 日本印刷技術協会

## 第5回緑友会夏期セミナー報告

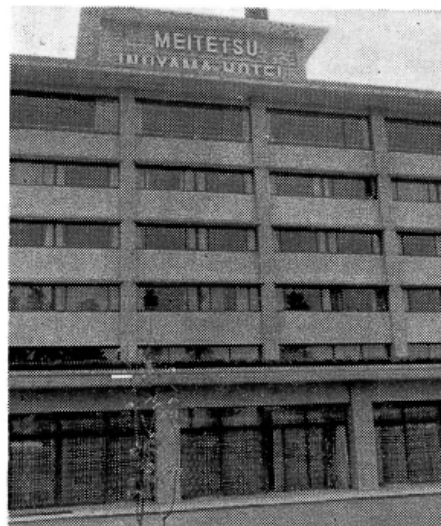
愛知県犬山市犬山城下名鉄犬山ホテル 昭和43年 8月24日, 25日

次代を拓く頭脳の交流と、思想の展開を企図する緑友会夏期セミナーは、去る8月24日25日にわたり、愛知県犬山市で開催された。会場は、日本の城のグラフで必ずお目にかかる犬山城の真下で豊かな水量の木曾川に面している。附近には、日本モンキーセンター、犬山遊園があり、明治村、大県神社に近く、犬山県立公園に属しているが、会場は緑の芝生に囲まれた静かな環境で、夏期セミナーにふさわしいところ。

全国より参加した緑友会員83名。昨年の仙台大会以来の仲間……、札幌總會の話がでる仲間……、また、はめじてセミナーに出席する若いメンバーもあって、たいそう親しみを加えた。お互いに久しぶりの会合を喜び、会場の選定、交渉設営に努力された地元・名古屋而立会の同志諸兄に感謝しつつ真剣な研修に入る。

### 8月24日(土)

- 10.00 プリント '68 視察報告  
和田 豊氏 (文京緑友会)  
高橋 茂氏 (東京同友会)  
白石豊氏(熊本プリンティングクラブ)
- 13.00 講演 思想・東西南北 作家 堀田善衛氏
- 15.00 講演 社会の情報化とは何か  
—20年後の日本  
東京工大教授 林 雄二郎氏
- 18.00 懇談会



### 8月25日(日)

- 8.30 講演 情報革命と印刷産業  
日本印刷技術協会研究委員会委員長  
馬渡 力氏
- 質疑応答  
司会 日本印刷技術協会研究部部長  
松尾真利氏

以上で会を終り11.30閉会した。  
世界的な視野において、変貌する人間社会と経済情勢の未来を透視し、情報革命に身を挺しようという、緑友会らしいセミナーであった。



## 思想・東西南北（講演要約）

作家 堀 田 善 衛

アメリカ、ヨーロッパ、日本、ソ連、中国など、先進資本主義国、及び先進社会主義国が、平和共存の姿で今日の世界に存在しているが、今後この平和共存がどのような状況になって行くか？

現在、これら先進諸国に対して、第三世界と云われている後進諸国、即ち東南アジア、ラテンアメリカ、ダーク、コンチネントと呼ばれるブラック・アフリカなど、アンダー・デブロップ・カントリーが、此の先、文明世界の中へ、我々人間の中へ、どのような状況を、又どのようなインパクト（衝撃）を持ちこんで来て、第二世界へと変貌するか、その可能性は、考えるに価するものである。

貧乏小国の集団である後進諸国が、第二世界になる？ということ、日本を含む先進諸国にとって、経済問題、政治問題は一応、別に措くとしても、我々のモラル及び精神問題において、大きな問題である。

そのような点から、我々文学者もかなりのエネルギーをさいて、考えたり、実際に現地へ赴いたりして、アプローチしているのである。

今後これら小国が、どういう役割を果たすか、又果さねばならないか、これはソ連のチェコ問題とも大いに関連するものである。

ソ連のチェコ侵入問題、ラテンアメリカのドミニカに対するジョンソンの介入など、第三世界の眼には、或る意味で、先進資本主義国及び、先進社会主義国のやる事は、同じに見える。世界のあちこちで起る小国の抬頭は、今日の事態から、将来にかけて第三世界の繁栄の徴候が現れたとも思えるもので、次第に第二世界になって行くものと考えられる。

第三世界と呼ばれる後進諸国の、問題の一番基本になるものは何か、それはそこが長い間植民地であった事、現在もまだそうであること。即ち独立が名目的には達成されているが、経済的、政治的支配機構は、完全にまだ続いている現状である。（講演中の例話は省く）

コロンブスの新大陸発見に端を発し、十六世紀初頭に始まる植民地化が、長い間に亘る物的或いは人的殺掠、略奪（奴隷制度）により、土着民の独自の文化そ

の他その国の全てを根絶し、ヨーロッパ文化、或いはキリスト教の使命を絶対的なものとして、常に優越性の中に置いた。絶対という事はあり得ない事であるが常に絶対的優越意識の中に存してきた、ヨーロッパ文明の、一方的な光で照射されて来た、いわば偏向的な歴史観、世界観が、我々も含めて先進諸国の歴史観、世界観として、長期間世界に君臨して来たのである。

現在後進国と云われる国々の人間は、人間として扱われていなかったのである。（植民地に関する歴史的、人間的な考察の詳細は記録から省く）

現在なお完全な独立国とは言いきれない現実の中で、後進諸国の人々は、自分たちは独立した人間であり、独立した民族であるという意識を深めて来ているのである。

人間社会としての存在を深めて来た事に対し、今や世界の眼（先進諸国的）もそれを認めざるを得なくなって来ている。

この現象はこれらの国々に対する呼称が変化して来た事でも明確である。

Back ward country（後進諸国）から Under develop country（低開発国）と何となく変化した。この何となく変化したということは重要である。次に Developping country（開発途上の国）から Amazing country（抬頭する国々）と変化し、或いは発展してきた。

後進国自体が言い出した呼称でなく、経済、技術その他の援助をこれらの国に与えている先進諸国の間で変化したものである。



この事は後進国に対する先進諸国の、意識の変化を示すものである。

現在は先進諸国が、後進国に対して遠慮している過程であり、意識の変化の過程でもある。

言葉の変化は単にこういう問題に関するカテゴリー、或いは分野だけでなく、いろいろな問題があって、常に生きていて変化していくものである。又言葉の変化は、内容する哲学の変化である。

このように、同一のものに対する呼称の変化は必ず思

想、イデオロギーの変化、哲学の変化が伴っているものである。同じもの、同じ地帯の呼称の変化を見ていれば、人間の世界、即ち我々の世界が、どのような動き方をしているか、予想出来るのである。

即ち言語と人間存在というものに、重要な関係があるという認識をもって、呼称の変化を観察しているだけでも、又呼称の変化が起っている事自体が、第三世界からのモラルインパクトが、これから先ますます起り得る事と思考されるものである。

## 社会の情報化とは何か (講演要約)

— 20年後の日本 —

東京工大教授 林 雄 二 郎



未来学が日本或いは諸外国で、大変問題になっている。今年の7月世界ではまだ始めての未来学会が日本に誕生し、諸外国に於いても研究が盛んになって来た。

昨年9月オスロで、<sup>21</sup>世紀の人間と社会はどうなるか、というテーマで会議があり、その時未来学の世界会議を作る話が話題となった。

即ち International Future Research Association I F R A (アイフラ) である。

1970年には、日本未来学会の主催で、世界会議を行うべく準備を進めているが、この会議が、I F R A の第1回会議となる事も予想される。ヨーロッパ、アメリカでは未来予測研究所、未来問題調査協会が出来、スタンフォード大学、モスコウ、パリ、ベルリン大学などでは、正式に未来学講座が組まれるなど、本格的になって来た。

日本では、帝人が未来事業部を作った事はご存知のとおりである。

こうした未来論の背景に、アメリカ、ヨーロッパでは、<sup>2</sup>現在社会が大きく変動しつつある、即ち、第2の産業革命が起りつつある、という実感を抱いている。

過去に産業革命を経験した彼等たちには、殊のほか重大な関心事であるといえよう。

それは何故か、産業革命の結果、大変 drastic (激烈な) な社会変動が起った事、即ち、変化の結果が国内問題のみならず、国際的变化にまで及んだこと。先進国と後進国の関係が大きく変わった事などである。

産業革命以前には、スペイン、ポルトガルが世界の中心であったが、20世紀の今日、影がうすくなっている。

産業革命後、工業が主導的な産業になり、工業国として、新しい国が進出した。

決定的な例はアメリカである。

第二の産業革命が起るであろうと実感している彼等の未来論は？何年たてば所得が倍になるか？又どんな家に住まえるか？という生易しい事ではなく、自分たちの足元で起る、社会の不気味な変化が、一体如何なる変化であるか、それは果して本物であるか、という議論に終始している。

それを彼等の言葉で云えば、Post Industrial Society 即ち、Industrial Society の次に来る社会の事である。

しかしこの意味も正確に云えば、少し問題がある。Industrial Society は、こと工業だけに限ったものではなく、農業、商業など全てを統括した現在の産業社会の事である。

産業革命によって産業社会が樹立された。

産業革命前は、産業社会ではなく、生産というのは奴隷のような卑しい人間がやるもので、社会を推進していく体制側の人間は、生産に従事していなかった。産業革命の結果、生産する人間が、社会の推進者となり、実権者になった。

反対に、非生産階級の人達が、寄生虫として、社会から葬られるに至った。

フランス革命など、初期的現われである。ブルジョア革命であるフランス革命、プロレタリア革命であるロシア革命など、革命の質は異なるが、要するに生産に従事する人達に、社会推進の実権が移行した事は同じである。

以上のような意味で、産業革命は、歴史的意味が深い。

Post Industrial Society はもっと広い意味で、物の生産を中心とする社会から、知識の生産を中心とした社会へ移行したものを指すのである。即ち有形生産社会を Industrial Society といい、無形の生産社会を、Post Industrial Society というのである。

Post Industrial Society の問題に、最初にとり組んだのは、アメリカのダニエル・ベルというコロンビア大学の社会学者である。

彼は、\*紀元2,000年委員会、という21世紀問題を議論する科学アカデミーの議長をしている。彼の Post Industrial Society 論は権威あるもので、次のように言っている。

Post Industrial Society は、一口で言えば、高度知識社会である。即ち

①第1次、第2次産業人口が減り、第3次産業の人口が、相対的に増加する。

②労働形態が、blue color から white color へ移行し資質が向上する。③white color の中でも専門職の資質が高くなる。又専門職の中でも科学、技術関係の殖え方が著しい。

この傾向の強い国は、Post Industrial Society に移行している国であり、今日の世界の中で、この傾向にある国は、アメリカと日本である。

両国に共通な現象として、

1. 都市への人口集中化が著しい。
2. 大規模なマスプロ教育の普及。
3. 知識産業従事者に対する、身分保障制度の充実などがあげられる。

高度知識社会になれば、知識のもとである、情報の商品価値が出る。

情報の売買が商売となる→情報の収集地は都市→都市への人口集中化→人間の教育→人間の頭脳が最大の資源→人間の頭脳開発→教育の重要性→エリート教育でなくマスプロ教育→知識産業従事者の身分保障充実という論法である。

その国が、Post Industrial Society であるか否かを判断する要素としては、

①国の政策が、合理的科学的論拠に立脚しないで、過去の経験や勘、慣習などで政策が決定する。②知識人が、常に反体制側に立って、批判ばかり行っている。③工業の立地条件が、頭脳的部門と手足的な部門に、分離せずミックスしている。

これらの国は否である。

日本もまだ条件不備ではあるが、高エネルギー民族高密度、知的好奇心旺盛、教育の普及率が高いことで Post Industrial Society になる適性資格を持った国である。

ダニエル・ベルに次いで、\*紀元2000年、の著書で有名な、ハーマン・カーン氏の「21世紀初頭の世界」によれば、21世紀初頭の状態について、彼は世界を次の6グループに分けている。

注 PIS=Post Industrial Society  
IS=Industrial Society

1. (優等生グループ) 完全なP.I.S国になりきる国—アメリカ、日本、カナダ、スキャンジナビア、スイス、フランス、西ドイツなど
2. PISになりかゝる国  
ソ連、イギリス、イタリア、オーストリア
3. PISの玄関口にいる国  
スペイン、ポルトガル、チェコ
4. IS真盛りの国  
メキシコ、タイ、チリ、イラン
5. ISになりかゝりの国  
ブラジル、インド、中国
6. ISの玄関口にいる国  
アジア、アフリカ、イラン圏、など南半球地帯

このことから、21世紀には、工業国と低開発国、即ち、南北問題はますます深刻を極めると言われる。上記1グループと6グループの所得格差は、1人当たり50倍以上に開く予想になっている。

1グループの1人当たり所得は、\$4,000~\$20,000と云われ、日本は少なくとも\$4,000~\$8,000にはなると予想される。

S42年度1人当たり所得が \$1,000弱、S43年度には

それを超えるであろうし、S60年の展望は \$2,700と  
いうことから、30年後の21世紀初頭には、\$4,000～  
\$8,000は可能と言える。

ハーマン・カーンの見通しは、充分可能なものであ  
る。

上記①のグループを更にしぼった結果、アメリカ、日  
本、カナダ、スウェーデンとなっている事を付け加えて  
おく。

又別の引用になるが、フランスの有名なジャーナリ  
ストの著書で、ロングセラーになっている『アメリカ  
の挑戦』という本の中で、

『今やアメリカは、ヨーロッパを席捲して、ヨーロ  
ッパはアメリカの属国以外の何物でもなくなる。ヨー  
ロッパよ奮起せよ。』と指摘している。

さてPISになった場合の、人間の生甲斐の対象の  
変化はどうか？

ISの世界では、仕事が生甲斐であるが、PISの  
それは、対社会的、対人間的、対感覚的な問題に移行  
するのではないか。

これは意味深長で、重要である。

PIS、即ち高度知識社会は、如何なる社会か。情報  
化社会、社会の情報化、情報革命の社会である。何故  
情報が問題になるか。社会が高度知識社会へ、接近し  
ている証拠である。何故なら、情報が商品化され、珍  
重され、知識のもととなるからである。

知識とは、学問だけでなく、人間の知的欲求の対象  
になるすべてを、指すものである。

従って、日本に於ける高度知識社会化の、証拠の一つ  
として、テレビ、新聞、雑誌の高普及率が、あげられ  
る。

しかし、知識欲を満たすための情報は、狭義のもので  
あって、真の情報の意味は、「何がしかの意志決定を  
与えるもの」でなければならない。これは言葉のみな  
らず、デザイン、商品なども情報の一つである。

何故ならば、デザインにより購買の意志決定をするか  
らである。

社会の情報化の定義として、

社会の情報化とは、全ての商品の持っている価値の  
中で、情報価値のウェイトが、著しく高い。というこ  
とである。

商品の価値分析は、

- 1 物的価値—商品のもつ固有の機能を発揮すること
- 2 情報価値—固有の機能とは、関係ない価値、例え  
ば、デザインなど……である。

人間の欲求は、機能的満足だけでなく、デザイン、  
美も又求める。即ち、物的価値（本能的欲求）及び情  
報価値（感覚的欲求）を求めるのである。

これらから、デザイン、模様などは、大変重要な要  
素である。現在は、全ての商品の情報価値が高まって  
来た時代である。

多情報社会になると、情報の処理、伝達、生産、管理  
が盛んになる。情報産業がウェイトを増して来る。又  
情報産業のみならず、物的生産をする産業自身でも情  
報を生産することになる。結果、社会が情報産業化す  
るわけである。

印刷産業も又、知識、情報産業として、未来産業の  
一つである。

情報化の当然の傾向として、コンピューターの普及  
がある。

しかし、このコンピューターに一つの壁がある。それ  
は何か、コンピューターは、何でも数量で把握する機  
械であることである。

この世界が、多情報社会化されている原因は、人間  
が、感覚的欲求になって来たことである。感覚的欲求  
は、数量的把握の困難なものである。この数量化しに  
くい感覚的なものを、どのようにコンピュータナイズ  
するか。

それは、コンピューター化出来るものに、置きかえ  
て、その身代りをコンピューターにかけるわけである  
この事から、コンピューターに出た結果は、あくまで  
コンピューターナイズされたものであることを認識す  
る必要がある。

将来は、コンピューターが、数量把握のみならず、  
パターン認識するようになるかも知れない。

情報の生産、伝達、の新しいチャンピオンとしてテレ  
ビがある。テレビの影響は、これからの情報化にとっ  
て、重要な問題である。

テレビによって、人間の意識形成にどれだけ、大きな  
影響を与えているか。

戦前の人間のインフォメーションは、人から話を聞  
くか、本を読むかで授受した。

即ち、一つ一つの段階を経て、吸収される第1次元的  
情報であって、それは、論理のひもでつながり、一つ  
の理論の輪を作り、知識となって頭の中にストックさ  
れるのである。

1次元的情報の場合に、最大の役割を果すものは論  
理であり、人間の意識形成の源でもある。戦前の人間  
は、論理人間である。

これが、戦後テレビの出現により一変した。

聞く、読むものから、映像に変わり、多次的なものとして、論理でなく、感覚で情報を授受するようになった。

戦後の人間は、感覚人間なのである。

学生運動も、イデオロギーの問題でなく、論理的人間と、感覚的人間のギャップである。

戦前の人間は、情緒的なことに対しては、パターン認識をするが、判断を要するものは、論理認識をする。戦後のテレビ人間は、判断を要するものまで、感覚認識する一種独得の神経の持主である。

これは日本だけでなく、諸外国でも起っている現象である。

今春来日したフランスの、ジャン・フラスチュエ氏(40,000時間の著書で有名)との対話の中で、「21世紀になったら、国と国のちがいをさることながら、同国内に於ける世界観の相異が、深刻になるのではないか」との私の問に対して彼も「全く同感」という事であった。

教育も一大転換期にきている。インフォメーション認識に、根本的变化がある事を考える必要があり、論理一点ばかりでなく、感覚的に理解させるテクノロジーが必要である。

出版の傾向にも注目の要がある。学生がマンガと哲学の本を読む。同一の人間が、左手にマンガ、右手に哲学書という具合にである。

絵で理解する本と、字で理解する本を分けている。

この才能は、戦前の者よりたけているのである。

現在社会の実権はまだ論理人間が持っている。しかし、20~30年後の社会は、感覚人間が持つようになる。このような意味で我々戦前の人間は、現在の彼等を理解する必要がある。

では次の世代は？

コンピューターの影響で、コンピューター意識の人間形成となる。

現在は、コンピューターはまだ公の場所にしかなく意識形成には影響していない。しかし20~30年後にはコンピューターが電話を通じて現在のテレビのように家庭に存在し、人間との対話をはじめる。

人間と機械の対話から、別の人間形成、即ち、論理人間が出来あがる。

機械との対話は、論理対話であるので、人間の考え方も、非常に変わるのである。

我々戦前の人間と、彼等たちの世界観の相異は、情報化社会の大きな問題であり、これをどのように受け止めるか、全社会的に考えなければならない事である。情報社会化への最先端にいる日本は、あらゆる事を最初に経験する運命を、担っている。

世界観の相異を是正する場合も、率先して事に当る覚悟が必要であり、外国を基準にもの考えるくせをなくす必要がある。

以上

セミナーの白眉であった

## 「情報革命と印刷産業」

日本印刷技術協会

研究委員会委員長 馬渡 力氏

次号に特集することにします



司会の松尾真利先生(左)と馬渡 力先生

## 昭和43年度 第2回常任幹事会報告

日 時	昭和43年 8月25日 日曜日 正午—2時
場 所	愛知県犬山市犬山城下 名鉄犬山ホテル
出席者	幹 事 長 白 石 豊 常任幹事 小 堀 正 三 (東京写真製版若葉会) 〃 大 川 英 郎 (神奈川正和会) 〃 高 橋 茂 (印刷同友会) 〃 佐 藤 忠 博 (名古屋而立会) 〃 武 重 治 (神戸印刷若人会) 〃 岸 時 弘 ( 〃 ) 〃 大 津 俊 雄 (代理丸谷慶二郎 仙台刷親会) 〃 大 隈 瑞 茂 (代理 間 茂樹 福岡印刷若葉会) 神戸大会 実行委員 角 丸 時 男 (神戸印刷若人会) 神戸大会 リーダー 大 河 内 信 行 (名古屋而立会) 元幹事長 土 井 庄 一 郎 (印刷同友会)

### 審 議 事 項

- 第1. 第11回緑友会神戸大会について  
8月末各グループに通知の通り大会運営について慎重に協議した。
- 第2. 参加費の返還について  
セミナーの参加申込みに対し、直前の欠席通知に対する払込済参加費は、如何に取扱うべきか審議し1週間前に通知があった分は返却、その後の取消については返却せず、緑友会にご寄附ねがうこととなった。また中途退出者についても会費の払い戻しはしない。以上を承認。  
第5回セミナー以降、この決定に従って処理することとなった。

### 第3. ブロック会議又は研修会について

札幌総会に於いて本年度緑友会方針として、北海道、関東、中部、関西、九州など各ブロック会議又は研修会を緑友会精神のもとに各ブロックの自主性において行ない、緑友会の組織の拡充及び緑友会員の緑友会事業へ全員参加の機会を作る。(従来方式では遠隔地のグループはほとんど参加できない。)こととなったがこれにつき審議した。現状では、

- 東 北 各県もち廻り、メンバー以外も入れて当番制で行っている。
- 東 京 同友会(内部の有志)と近県グループの間でゴルフなど懇親会
- 名古屋 岐阜と名古屋で年1回交流
- 神 戸 西日本青年印刷人大会のほか、特になし
- 神奈川 なし
- 九 州 西日本青年印刷人大会。毎年1回。緑友以外も含む。緑友未加入グループに対しても対立せず広い視野から包み込み緑友会入会を期待している。

### 第4. 日本印刷技術協会への協力について

札幌総会において、日本印刷技術協会の育成に緑友会の総力をあげて協力することを決定したところ、全国各地の絶大な支援があり、5月当時通信教育生2800名だったものが8月現在3800名となった。緑友会に対して、日本印刷技術協会市村教育委員長より謝辞を述べられたが、通信教育への入学及び協会への入会に対する運動は、これで終りとせず、企業毎の入学、入会を今後ますますめることとする。

### 第5. その他

10月13日、西日本青年印刷人佐賀大会。  
ホスト佐賀若楠会のお招きにより、市村氏、土井氏、小堀氏、武氏の4氏が講師として出席する。

# グループの動向

## 仙台刷親会

43年度の役員がつぎの通り就任しました。  
本年度も業研部門、レク部門ともに特色ある活動を計画し実行して参りますのでこれまで以上に今後ともよろしくご支援のほどをお願い申し上げます。

会 長	大 津 俊 雄
副 会 長	高 田 兼 雅
／	亀 岡 勇
事 務 局 長	庄 子 義
補 佐	山 田 昭 一

### <業務研究>

常 任 理 事	早 坂 長 作
理 事	遠 藤 進
／	村 上 吉 昭

### <レクリエーション>

常 任 理 事	相 沢 孚 通
理 事	佐 藤 喜 男
／	大 友 徹 郎

### <厚生>

常 任 理 事	郷 家 忠 明
理 事	斉 藤 昭 次 郎

### <会 計>

常 任 理 事	野 田 陽 一
理 事	湯 田 立 郎
監 事	木 下 富 介
／	門 田 英 一

事務局 仙台市清水小路6 (丹野印刷内)  
電 話 (02) 2 4 7 1

## 札幌緑友会

昭和42年の経過と昭和43年度の予定並びに現状と問題点について

昭和42年度初頭の札幌緑友会は会員の落伍が

続き一時解散か存続かの岐路に立ち致ったのですが藤田現幹事長を中心として少ない会員乍らも次代のリーダーたらしめる目標に向って、良く定期月例会を毎月8日に開き一步一步親睦と友愛を深めつゝ順次新会員を紹介し合いながら再建へ努力した年と云へましょう。

此の間定期月例会では新入会の紹介と身近な経営問題、労務問題等の意見交換をし、大いに勉強に励み、且又10月の仙台大会へは新睦と友愛を深めるにはと7名の会員による出席を見ました。11月の例会は同大会の報告を中心として仙台団地見学により業界の共存共栄の方向等、一大啓蒙をさせられた会員諸兄により、会員の倍增運動と昭和43年4月の全国緑友会総会札幌開催を前面に力強い緑友会活動を押し進める事を決議し、着々その効果を上げております。

この団結を全国緑友会総会を契機に全道一円に広めようと準備した次第で有ります。

又昭和43年1月には身体障害者福祉厚生事業団リハビリエイトによる印刷事業の開始を見まして、札幌印刷界に労務問題・市場問題経営問題等、一大センセーションを起しました。それら問題研究等、我々会員の行動すべき問題が山積みして来ましたが、反面新入会員の増加にともなう活潑なる意見によりまして、札幌緑友会の性格と努力目標と行動力等の批判や方向に種々問題がおきてまいります。

現在会員全員によるアンケートを取り、此れ等問題の結論を生み出し乍ら、力強く行動して行くスケジュール作成をしようとしているのが現状であります。

なお6月に製紙工場見学、7月は印刷文化展の行事があります。

しかしながら全国緑友会の仲間たちの心と心の結びつきを中心に印刷産業の社会的地位の向上を目標に印刷産業の明日を照らす大きな希望の灯となろうと叫び続けている現全国緑友会白石幹事長始め、諸先輩の方々のより良いご指導とご鞭撻を賜りまして札幌緑友会を立派な会にしたいと念じて居る同志の集りである事を御報告申し上げます。



### 札幌緑友会構成

- 1 役員  
幹事長 藤田俊雄  
幹事 三浦光三  
会計 高見法保  
持回り幹事 会員全員毎月交代
- 2 定例会  
毎月8日 午後6時より
- 3 会員数  
19名
- 4 会費  
1ヶ月 1,500円 (会費 500円 例会費 1,000円)

### 神戸印刷若人会

#### 昭和42年度神戸印刷若人会例会及行事記録

- 幹事長 角丸時男  
会計幹事 松本孝昭  
庶務幹事 面山政暉
42. 4. 15 緑友会常任幹事会出席 於大阪岩岡印刷KK (武, 角丸君)
42. 4. 19 4月例会 於印刷会館  
紀州製紙中川営業課長外を招いて  
関連業界懇談会
42. 4. 23 「兵庫県美化推進連合会 (兵美連)」合同  
標柱建て 於修法ヶ原
42. 5. 7 会下山カラーパーク桜の手入及び清掃
42. 5. 13 緑友会定期幹事総会出席 於福岡国際ホテル (幹事3名)
42. 5. 17 5月例会 於印刷会館  
前神戸市立美術館長 荒尾親成氏を招いて「開港百年にちなむ神戸史譜」を聞く
42. 6. 12 6月例会 於神戸印刷会館  
県警生田署交通課長小寺氏外を招いて「交通道德高揚講座」を聞く
42. 6. 17 緑友会常任幹事会出席 於東京 (武君)
42. 7. 4 7月例会 於印刷会館  
神戸市企画室 大瓦氏, 神戸新聞社外を招いて「住みよい神戸を考える会」を開く
42. 8. 6 家族会「鮎つかみ」  
於播州夢前町新庄
42. 9. 3 緑友会セミナー出席 於熱海 (松本君外4名)
42. 9. 9 西日本大会出席 於別府南明荘 (武君外5名)
42. 9. 27 9月例会 於印刷会館
- 42.10. 15 「兵美連」と合同清掃 王子公園, 六甲山, 修法ヶ原等をパレード
- 42.10. 21 緑友会仙台大会出席 於仙台市 (角丸君外9名)
- 42.11. 3 組合運動会応援 於明石市グラウンド
- 42.11. 29 11月例会 於印刷会館  
尼崎中央署長森木正一氏を招いて「作家から見た犯罪のいろいろ」を聞く。
- 42.12. 7 「十年のこと」刊行記念パーティー 於国際ホテル 金井兵庫県知事外多数を招く
43. 1. 22 1月例会 新年会 於印刷会館  
福田理事長をお招きして「これからの経営, 組合における今年の方針, その他」を聞く
43. 1. 27 緑友会常任幹事会出席 於京都終尾 (武, 角丸君)
43. 2. 22 2月例会 於印刷会館  
神戸中央郵便局集配課長 山本氏外を招いて「郵便番号」についてを聞く。
43. 3. 23 3月例会 総会 於印刷会館  
東明閣  
・年間経過報告  
・新幹事長 岸 時弘  
会計幹事 中畑 朗君に引継ぐ  
庶務幹事 相野耕三
- 以上

(付) 例会の外に毎週火曜日12時より1時半までレストラン「パウリスタ」の中に設けられている「印刷クラブ」に集まり「ひるめし会」(出欠自由)を行う。

**昭和43年度神戸印刷若人会例会及び行事計画**  
43. 4. 8 立案

- 4月8日(月) 新幹事第1回会合  
(臨) 4月9日(火) 会下山カラーパーク観桜昼食会 神戸新聞取材  
4月例会 4月13日(土) 講演「ドル危機と景気動向」 神戸新聞社経済部長 議事 42年度決算及び事業報告書配付 43年度年間計画・神戸大会開催について  
4月27日28日 緑友会札幌総会出席(4名)  
5月例会 講演「改造される神戸」神戸市より 適当な方  
(臨) 清掃「街と公園を美しく」  
6月例会(上旬) 講演「現代病」内科医師  
7月例会(下旬) 座談会「シカゴ印刷機材展より帰りて」  
8月例会(日) 家族会「明治百年記念見学バス」  
(臨) 8月9日 神戸大会準備連絡会  
9月21日(土) 大会準備総仕上げ  
22日(日) 緑友会神戸大会開催  
10月例会 講演 「男性専科」女性講師  
(臨) 清掃 「街と公園を美しく」  
11月 (臨) 印刷組合運動会手伝  
11月 } 例会 忘年会 「お楽しみに」  
12月 } (11月下旬又は12月上旬)  
1月例会 講演 「労務管理について」  
(臨) 印刷組合互礼会  
2月例会 講演 「法律に強くなろう」弁護士  
・交通事故の事後処理その他  
3月例会 43年度 納 会  
(注) ・5月例会以後は全部予定  
・例会開催は原則として

「第2水曜日6時半印刷会館」とする(但し5日, 10日, 15日, 月末は他日に変更)

・例会の外に毎週火曜日12時より1時半までレストラン「パウリスタ」で「ひるめし会」(出欠自由)に集る以上

### 久留米プリンティングクラブ

#### 活動状況報告

久留米プリンティングクラブが誕生して満七歳を経過しましたが、当グループとしては全国先輩諸兄の参考になる様な目立った行事は一つとして実施してはおりませんが、只一つ、私達個々の会員が自己満足していることを御紹介申上げ、グループの活動状況報告に替えさせて戴きます。

はじめに当クラブの創立の目的も全国印刷緑友会の生いたちのように、木の芽がだんだんと成長し枝が出、葉が出て来る様に同志が二人集り四人集り、そして業界の近代化のために起ち上がったのでございます。創立二年間は会員の募集と団結心の向上に専ら力を注ぎ、毎月の研修会を始め、先進業界の視察等ドシドシ実行して、会員の奮起が自ら盛り上るのを感じました。其の結果、親組合からも感謝され、私達の第一線での活躍も思う存分に意のままに動くことが出来る様になりました。然し近代化の設備は段々と隣県も進み、昭和三十八年頃より温和な当地にも過当競争の聲が発生する様になって来ました。そこで私たちは会員相互の団結と発展を計るとともに、隣県の同志諸兄までに当グループのスローガンを訴え、現在実施している佐賀・大牟田・久留米の「隣県合同研修会」を成立致し、除々に木の芽が成長しつつある段階となりました。

「隣県合同研修会」の特長といたしましては一人でも多く参加して戴くことに主力をおいております。そのためには、

- 一、最も短い時間で最も有効に
- 一、最も経費がかからず、最上の結果を

と云うことです。そのために隣県三グループで当番持廻り制で実施しています。始めにセミナーの講師には手近な業者間又はグループのリーダー格を相談しております。研修会テーマも九州のグループ会員が最も知りたいこと最も手近な問題を採用しております。視野の広いことは全国大会、夏季セミナー等で知ることが出来ますので此の研修会では難かしい話は止め、ほんとうに易く身に着く問題点を取り上げています

次に座談会に変わりますが、この時間は「お互いの悩み」を持ち寄ってその解決策を皆んなで探す時間でございます。「全員発言」で実に参考になる時間です。

以上で研修会が終り、懇親会に移り若さを大いに発散させ氣勢を上げ散会します。

以上は有意義で時間も土曜日の午後で終り、講演会、座談会、宴会を消化して会費一人千円で済みます。

出席者全員満足して明日よりの新しい力を発揚させる研修の場と喜んでおります。

#### 昭和42年度 第1回隣県合同研修会

ホスト 久留米プリンティングクラブ

と き＝昭和42年6月24日(土)午後2時

ところ＝久留米市細工町 <sup>マツゲン</sup>松源

TEL ③ 2517

講演 全国印刷界の動向

「団地に立っての感想」

全国印刷緑友会幹事長  
白石印刷美術株式会社々長

白石 豊 氏

研修会 「セールスマンの心掛」

#### 昭和42年度 第2回隣県合同研修会

と き 昭和42年8月26日(土曜) 13時

ところ 佐賀市北堀端(佐賀電話局南)千扇  
研修会議題 印刷料金基礎算定に対する解説

講師 栄光印刷株式会社社長

中村 昭治 氏

ホスト 佐賀県印刷人若楠会

#### 昭和42年度 第3回隣県合同研修会

と き 昭和42年11月18日(土)

1. 全国緑友会幹事長の挨拶

1. 大牟田印刷協同組合長挨拶

1. 講演 実践的営業活動の進め方

講師 上原 晃 先生

(鹿島印刷株式会社取締役)

ホスト 大牟田印刷交友会

#### 久留米プリンティングクラブ構成

1. 役員

顧問 岡本 偉  
(昭和紙工(株)常務取締役)

全国印刷緑友会  
担当理事 三 洲 満  
(有)三洲祥文堂専務)

会長 川原 弘  
(中央印刷(株)常務取締役)

副会長 国武 桂一郎  
(有)国武印刷専務取締役)

理事 田中 三夫  
(有)田中敬文社専務取締役)

／ (会計) 坂口 恵孝  
(香和印刷(株)営業部長)

／ (総務) 多田 政敏  
(多田印刷(株)常務取締役)

2. 定例会

毎月8日 午後6時より

3. 会員数 15名

4. 会費 1ヶ月 1,000円

5. 例会の研修テーマ

① 経営合理化に関する問題

② セールスに関する問題

③ 技術向上に関する問題

④ 会員相互融和連けいに関する問題

⑤ 適正価格に関する問題

## 全国印刷緑友会会員名簿

昭 43. 7. 22 現在

No.	会 名	住 所	電 話	代 表 者	人 数
1	札幌緑友会	札幌市北三条西2丁目 ㊟ 藤田印刷所	(22) 4111	藤田 俊雄	19
2	秋田昭和会	秋田市大町3-5-30 秋田県印刷工業組合内	(2) 2961	相沢 隆一	22
3	山形印刷研修会	山形市本町2丁目1-34 菅原印刷所	(2) 6291	菅原 金一	29
4	仙台刷親会	仙台市清水小路6 丹野印刷㊟	(21) 2471	大津 俊雄	56
5	茨城緑友会	水戸市上水戸2丁目3番1号 ㊟ 川島紙店内	(21) 2205	大塚 成治	27
6	群馬緑友会	前橋市曲輪町81 原田印刷所	(2) 4367	石川 羚二	18
7	印刷同友会	東京都千代田区神田多町2-7	(251) 1667	白橋 達夫	113
8	文京緑友会	東京都文京区大塚4-39-13 文京印刷会館	(946) 4454	松本喜美雄	66
9	東京活字鳳友会	東京都千代田区三崎町3-4-9 宮崎ビル	(265) 3781	斎藤 実	11
10	東京写真製版若葉会	東京都千代田区三崎町2-42 東京写真組合内	(261) 2558	日出島清司	68
11	神奈川正和会	横浜市南区永田町1,178 大川印刷所	(731) 3664	佐々木久雄	25
12	新潟印刷新世会	新潟市川端町5 ㊟ 旭光社	(66) 6695	本間 吉平	27
13	長野青年印刷人 緑友会	長野市七瀬中町212 長野県印刷工業組合	(6) 3279	杉田 司	38
14	名古屋而立会	名古屋市東区高岳町2-2 印刷会館	(962) 7061	宇佐見礼次郎	46
15	ぎふ翠陽クラブ	岐阜市岩崎74-8 ㊟ 大鹿印刷所	(65) 5648	大鹿 洪二	35
16	神戸印刷若人会	神戸市生田区下山手通り5-21 兵庫県印刷工業組合	(34) 3857	岸 時弘	27
17	広島緑友会	広島市中町4-14 朝日精版印刷㊟	(41) 3591	尾山 整造	10
18	福岡印刷若葉会	福岡市舞鶴1-2-25 九州印刷文化出版社	(65) 2675	中村 昭治	46
19	北九州Y Pクラブ	北九州市小倉区中島町1丁目 ㊟ 渡辺印刷所	(55) 1988	渡邊 守将	15
20	久留米プリンティング クラブ	久留米市両替町20 三淵祥文堂	(3) 6182	川原 弘	16
21	熊本プリンティング クラブ	熊本市東外坪井町47 博文舎	(52) 6812	角 明彦	15
22	大阪青年印刷人 クラブ	大阪市住吉区中加賀屋町4-22 岩岡印刷㊟	(671) 6331	岩岡 敏志	59
23	大阪二世会	大阪市東成区大今里町2-754 吉谷商会	(981) 6655	中島 敏春	15
24	下関青年印刷人 緑友会	下関市長府町土居の内 昌栄堂印刷社	(45) 0105	泉 和夫	13
25	佐世保印刷若汐会	佐世保市瀬戸越町260 ㊟ 隆文社	(3) 6306	井上 実	10
計					826

### 編集後記

第5回夏期セミナーの報告をお送りする。  
セミナーの開催には、地元の名古屋而立会のご協力と堀田氏、林氏、馬渡氏、松尾氏……今回のテーマで考えられる最高のスタッフ……の熱心なご講演で、予期以上の収穫があったと信じます。

本号では、堀田善衛氏、林 雄二郎氏の講演を要約掲載したが……そのため、実に迫力のあるお話しであ

ったのに、要約だけみると、色あせてくる。これは私の要約の下手なせいで、責任は私にある。

そこで、馬渡力先生の講演は、印刷人にとり簡単な要約では惜しい内容であるから、次号に特集する。プリント'68の報告は面白い内容であったが紙面もないので省略した。

編集責任 幹事長 白石 豊  
発行 全国印刷緑友会事務局